施政方針より

「まちづくり」から「暮らしづくり」へ

３月１日、平成30年第１回津市議会定例会の開催に当たり、前葉泰幸市長が施政方針を述べました。今号では、その主な内容を掲載します。なお、施政方針の全文については、津市ホームページでご覧いただけます。

津市　施政方針

時代の一歩先行く市政

来年５月に「平成」から新しい元号に変わります。国全体としては、「新しい元号による新しい時代が幕を開ける」。そういった意識が高まっていくものと思います。世において、この平成30年は、平成という時代と次に訪れる新しい時代をつなぐ年、平成を締めくくる年になるということです。

施政方針を述べる前葉泰幸市長

こういった時代の流れのなか、津市は、まさに平成20年代を計画期間とする合併後最初の総合計画を進め、新市まちづくり計画に掲げた将来ビジョンの具現化に向けた取り組みを積み重ねてきました。その総合計画も平成20年代という時代とほぼ時を同じくして、３月で終了し、４月からは新しい総合計画がスタートします。

津市にとっての平成30年。それは、新しい元号の時代に先駆け、まちづくりの新たな段階の第一歩を踏み出す年であるということです。そして、その第一歩は、新しい元号の時代を先取りした一歩でなければなりません。つまり世の中の動きを的確に捉え、一つ先を行く行動を常に意識していかなければならないということです。

次なる市政のテーマ

「合併した当時に思い描かれた新津市のあるべき姿を目指したまちづくりが、一つの区切りを迎えた。」産業・スポーツセンターのオープンは、まさにそのことを象徴し、津市の平成20年代の最後を飾りました。

合併した都市としてあるべき姿を整え、新たな市政を展開する時期を迎えた今、津市の次なる市政のテーマ。それは、『「まちづくり」から「暮らしづくり」へ』です。

市民の日々の生活や心の豊かさを高める施策に重点を置く市政を力強く展開していくということです。これまでに経験したことが無い少子高齢化を伴う人口減少が急速に進むなか、これからの時代は、拡張するばかりの時代ではなく、育み築き上げてきたものをさらに良くし、市民が心から住みやすさを感じるまちにしていかなければならない時代です。これは、決して将来を縮小基調と見るものではありません。これまで進めてきたまちづくりの施策をやめるというものでもありません。津市に住み続けたい、津市に住んでみたいと多くの人に思っていただける都市となるために、津市の新しい時代を切り拓いていくということです。新しい総合計画に将来像として掲げた「笑顔があふれ幸せに暮らせる県都 津市」の実現です。

積み重ねてきた３つの層の土台

津市の新しい時代を切り拓いていくための土台は、これまでの12年間で丁寧に築き上げ、３つの層が積み重なった強固なものとなりました。